

検査の実施要領

実施項目	伝達内容（検査者→受検者）	備考
1 検査用紙の配布 検査用紙は「裏」と書いてある方を上にして配布	<ul style="list-style-type: none"> ● それでは、これから内田クレペリン検査を行ないます。 ● 検査の支障にならないよう、携帯電話や、スマートフォンの電源を切ってください 	用紙は必ず裏にして配布。 鉛筆（HB程度）以外の筆記用具は使わせない。私語はやめさせること。
2 検査に先立つ注意	<ul style="list-style-type: none"> ● 検査用紙は、まだ裏にしたままです。これから説明をしますので、よく聞いてください。 ● この検査で皆さんにやっていただくのは、簡単な一桁のたし算です。たし算をやってもらうことによって、皆さんが持っているいろいろな特徴をつかもうとする検査です。 ● むずかしい検査ではありません。音声にしたがって、まじめにやってください。 	この検査の内容については、あまりくわしく説明しない。また、検査の時間条件などは言わない。受検者が過度の緊張をしないよう配慮する。
3 「レンシュウ」欄の確認	<ul style="list-style-type: none"> ● では、やり方の練習をします。用紙を表にして、「レンシュウ」とカタカナで書いてあるところを左上にしてください。 ● 鉛筆はまだ持たないでください。名前なども、検査が終わった後で記入します。 	持っている用紙をかかげ、「レンシュウ」の部分を手で指す。すぐに名前を書こうとする人がいるので注意。
4 練習の説明 （第1行目）	<ul style="list-style-type: none"> ● まず、レンシュウ欄を見てください。レンシュウ欄の1行目を読みますと、7, 9, 4, 6, 3, 8という順序で数字が並んでいます。 ● 計算のやり方は、隣り合った2つの数字を順番にたして、その答えを2つの数字の間に記入していきます。 	できれば「7,9,4,6,3,8」の部分を黒板に板書する。
たし算の答の書き方を説明	<ul style="list-style-type: none"> ● レンシュウ欄の最初の数字を見てください。まず最初は、7と9です。 ● 7たす9は16ですが、記入する答は、16の6だけです。つまり、下一桁、一の位の数だけです。レンシュウ欄のように、7と9の間に答を記入してください。 ● 次は、9と4で13ですから、答は3となっています。次は、4と6です。4たす6は10になります。10は下一桁、一の位が0ですから、0と書いてあります。次は、6と3で9です。十の位がなく、答は一桁ですから、そのまま9とだけ書いてあります。次は、3と8で11ですから、11の1と書いてあります。 	たし算の答を板書する。
答を間違えた時の処理の仕方を説明	<ul style="list-style-type: none"> ● このようなやり方で、たし算を続けていきます。もし、答を間違えたら、書き直してください。 ● 書き直すやり方を説明します。書き直すときは、間違えた数字の上にななめの線を引いて、その隣に正しい答を書いてください。消しゴムは使わないでください。 	間違いの例も「3 8」のように板書する。 2 1
5 練習の実施 （第1行目）	<ul style="list-style-type: none"> ● それでは、計算のやり方を練習します。いま説明した続きの8たす6からです。 「では、鉛筆を持って」 「用意、始め」 （20秒ほど経過したところで、計算をやらせながら） 「1行全部終わった人は、鉛筆をおいて待っていてください。」 （40秒目に） 「はい、やめ！鉛筆をおいて」 	40秒間計算させる。 「始め。」の号令と同時にストップウォッチを押す。 号令は、はっきり、大きな声で。 40秒たったところで「はい、やめ！」と号令をかけ、ストップウォッチを止め、針をもとに戻しておく。
6 練習の説明 （第2行目以降） 行かえの説明	<ul style="list-style-type: none"> ● では、次の説明に移ります。いまのように計算をしていると、「はい、次。」という声がかかります。「はい、次」という声がかかったら、そこで計算をやめ、すぐに次の行の左のはしに移ってください。 ● そしてまた、たし算を続けます。 ● しばらくすると、また、「はい、次」という声がかかります。このように、「はい、次」の声で、下の行へと移っていきます。 ● 最後に「はい、やめ」という声がかかったら、そこで計算をやめて、すぐに鉛筆を置いてください。 	
7 練習の実施 （第2行目以降）	<ul style="list-style-type: none"> ● それではまた練習をやってみましょう。レンシュウ欄2行目からです。 「鉛筆を持って」 「用意、始め」 （……20秒ごとに、「はい、次。」を3回、……4回目は「はい、やめ！鉛筆をおいて」） <p>以上が検査のやり方です。</p>	「始め。」の号令と同時にストップウォッチを押す。ストップウォッチは、この間、動かしたままにしておき、20秒経過毎に「はい、次。」の号令をかける。20秒ずつ4行やらせる。 4回目（80秒経過するところ）で「はい、やめ！」の号令をかけ、ストップウォッチを止め、針をもとに戻す。

8

行とばし、1行をこえたときの注意

- 次にいくつかの注意点を説明します。
- まず、行をとばしたときの注意です。たとえば、「はい、次」の声がかかって、1行目から2行目に移らなければいけないとき、3行目に移ってしまったという場合です。この場合、もし途中で行をとばしたことに気がついても、そのままやり続けてください。とばした行は、そのままにしておいて、下の行へ下の行へと移ってください。
- 次に、たし算を続けていて、もし用紙の一番右端までやってしまっても、「はい、次」の声がかからないときは、つづけて下の行へ移ってください。
- 少し計算すると、必ず「はい、次」の声がかかります。そこで、また、下の行に移ってください。
- 検査用紙を見ると、中央に仕切り線があります。
- たくさん行を飛ばしたり、1行と少しのやり方になったりすると、中央の仕切り線をこえてしまうことがあります。
- そのときは、仕切り線をこえても、下の段に移ってください。以上が注意点です。

9

本検査前の準備「サキ」の段

- それでは、検査を始めます。
- まだ、鉛筆は持たないでください。用紙の右下を見てください。サキと書いて、矢印があります。
- 検査は、そこから始まります。
- サキと書いて、矢印があるところが左上にくるように、用紙を回してください。

本検査の出だしは、きわめて大事なので、全員が正しく用紙をおきなましたかどうかを確認する。

10

本検査の実施「サキ」の段

- これから検査を始めます。練習と同じように、まじめにやってください。
「では、鉛筆を持って」「用意、始め」
(……60秒ごとに、「はい、次。」を14回、……15回目は「はい、やめ！鉛筆をおいて」
「用紙を裏にしてください」)

「始め。」の号令と同時にストップウォッチを押す。ストップウォッチは動かしたままにしておき、針が60秒のところを経過する時に、「はい、次。」の号令をかける。60秒ずつ15行やらせる。

11

休憩(5分間)

- ここで、しばらく、休憩です。そのまま、静かに休んでください。
(休憩後1分ほど経過したところで)
- 用紙は裏にしたままで、説明を聞いてください。

15回目(15分経過するところ)で「はい、やめ！」の号令をかけるが、ストップウォッチは、止めずに、休憩中もそのまま動かしておく。

「アト」の段に入った人の確認

- 中央の仕切り線をこえて、アトと書いてある段に入った人がいましたら、手を上げてください。担当者は、その人に2枚目の新しい用紙を渡してください。

休憩中はさわがないように注意。

「アト」の段に入った人がいなければこの説明は省略する

- 2枚目のやり方について、このあと説明しますので、しばらくお待ちください。
- それでは、2枚目の用紙をもらった人だけに説明をします。
2枚目の用紙をもらった人は、2枚目も、もう一度、サキのところからやってください。

受検者が少人数で、助手がいない場合は、「係りの人は……」以下の説明は省略し、直接用紙を渡す。

- それでは、もう少し、休みが続きます。
- 用紙は、まだ裏にしたままです。

本検査前の準備「アト」の段

- (休憩開始後4分ほど経過したところで)
- 用紙は、まだ裏にしたままで、説明を聞いてください。
- 今度は、仕切り線の下、アトと書いて矢印があるところから検査を始めます。
- 検査を始める前に、背のびなど、適当な準備運動をしてください。

- (終了直前の20秒で)
- では、用紙を表にしてください。
- 鉛筆は、まだ持たないでください。
- アトと書いて、矢印があるところが、左にくるようにしてください。

左のように言いながら、ストップウォッチを止め、針をもとに戻す。休憩の5分は、多少のびてもかまわない。5分を守るあまり、「アト」の段第1分目をあわててスタートさせたりしないよう注意する。「アト」の段第1分目は、検査全体を通じて最も大事なところなので、全員の態勢が整うのを確認する。「始め。」の号令と同時にストップウォッチを押す。以下、「サキ」の段と同様。ただし、「アト」の段は、15行でやめさせず、16行目も10秒間やらせる。これは、「サキ」の段と「アト」の段を入れ違えてやった人がいた場合、それがわかるようにするため。

12

本検査の実施「アト」の段

- 今度は、そこから始まります。
- 仕切り線の上に余っている行は、そのまま、残しておきます。
- それでは、前と同じように、まじめにやってください。
「では、鉛筆を持って」
「用意、始め」
(……60秒ごとに、「はい、次。」を15回、……「アト」の段は、15行目の時も、「はい、次。」と号令をかけ、16行目も続けさせ、その行を10秒ほどやらせてから、「はい、やめ！鉛筆をおいて」と号令する。)

- これから、氏名等記入欄の説明をします。
- 氏名等は機械で読み取りますので、きれいなはっきりとマスにおさまるように記入してください。記入欄以外の欄には何も記入しないでください。
- レンシユ欄が左上にくるように、用紙を回してください。
- これからする説明に従って記入してください。
- まずは番号の欄です。番号は担当者の指示に従って数字のみ右寄せで記入して下さい。
- 担当者は必要に応じて、記入する内容を指示してください。
- 氏名は、すべてカタカナで記入します。名字と名前はそれぞれの欄に左寄せで記入します。小さい「ツ」「ヤ」「ユ」「ヨ」は大きい字で記入し、濁点や半濁点がつく「バ」や「パ」などは、ひとマスに記入して下さい。6文字以上の場合は、入るところまで記入してください。
- 性別は、該当する性別の欄にマルを記入してください。
- 年齢を記入してください。
- つぎに、受検回数の欄です。受検回数の欄は、これまで受けた回数を記入してください。この検査をはじめて受けた人はゼロと記入して下さい。
- 検査日時の欄を記入してください。
- 時間は、現在の時刻を記入してください。担当者はきりのよい時刻を指示してください。
- 最近3ヶ月以内にこの検査を受けたことのある人は、日付を記入して下さい。
- 体調欄には、この検査を受けるにあたって影響がある場合、それを記入してください。
- 学校名、学科名、学年、組または会社名を記入してください。
- 特記事項の欄は、担当者から、特に指示があった場合、その内容を記入して下さい。
- なお、用紙を2枚使った人は、2枚目にも番号、氏名を記入して下さい。
- 記入したあとは、担当者の指示に従って下さい。
- 以上で、検査は終わりです。
- 担当者はCDを止めてください。

実施用号令CDは
ここで終わる

氏名などの記入欄は、必ず検査終了時に記入させる。始めに記入させると検査そのものもたついたりしやすい。

番号と受検回数は右詰めで記入させるように注意する。

氏名は左詰めで記入させ、体調は、検査を受けるのに具合の悪いことがあれば書かせる。

検査日時の欄には、検査終了時に近い、きりのよい時刻を記入させる。その他の項目も、もれなく記入させる。

表面の氏名等記入欄も記入させる。表面の氏名は漢字で記入する。

本検査部分の答を書き加えたりする人がいるので注意する。素早く回収し、記入欄にもれがないか確認する。

「⊗(マルバツ)」法について

加算不可能者、および加算量僅少者（各分15程度以下）に対する再検査として行う方法で、検査用紙の数字の上に、図のように⊗の印をつけさせる（各数字を⊗で消していかせる）。練習や行かえなどの時間条件は、加算法と同じにやる。この方法は、受検者の負担を軽くして毎分の作業量を増加させ、時間的経過にともなう変化の様子を拡大して見るわけである（この結果は、加算による結果とともに判定者にまわすこと）。



株式会社 日本・精神技術研究所

〒102-0074 東京都千代田区九段南2-3-27 あや九段ビル3階

TEL 03-3234-2961 FAX 03-3234-2964

URL <https://www.nsgk.co.jp>